



JA おおふなと

農業・地域と共に生きる協同組合への道

JA おおふなと自己改革の振り返り

JA おおふなとではこれまで、地域の農業振興や暮らしやすい地域づくりのため「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」・「地域の活性化」・「結びつき強化」を自己改革の柱として、農家組合員の所得増大と地域活性化に取り組んでまいりました。

今日までJA おおふなとが取り組んできた自己改革について、組合員の皆さまにもう一度ご理解いただき、来る平成 30 年 12 月からの全組合員調査（正組合員様・准組合員様どちらもです）へのご協力をお願いいたします。

1. 農家組合員の所得増大・農業生産の拡大のため

① 農家組合員のニーズに応えるための体制を強化

例えば…

- ① 担い手担当部署として営農企画課を新設しました。
- ② 担い手に出向く担当職員（TAC）を増員しました。

② 販売事業の強化と生産振興

例えば…

- ① 関東や関西市場、管内の各イベントに役員が参加し、トップセールスするとともに、担当職員も県内外で積極的に販促強化を行っています。
- ② 子会社である（株）JA おおふなとアグリサービスにおいて、新技術の実証実験として、トマト、いちごの栽培を行い、営農振興および雇用創出による地域振興に取り組みました。



③ トータルコストの引き下げ

例えば…

- ① 水稻苗や肥料の供給単価の引き下げを行いました。
 (水稻苗:1箱△50円 オール12号1袋(20kg)△173円 LP気仙430号△238円)



④ 部会組織、農業法人組織との連携強化

例えば…

- ① 大船渡市・陸前高田市・住田町にそれぞれ稲作受託協議会を設立しました。
- ② 青年部を再構築し、各種イベント等に参加しています。



⑤ 6次産業化に向けた取り組みの強化

例えば…

- ①管内産の農産物を使用したオリジナルドレッシングを開発・販売し、規格外等の農産物を有効活用。(りんご・気仙小枝柿・けせん茶・しいたけ・トマトの5種、椎茸みそ2種、炊き込みご飯の素)



2. 地域活性化・結びつき強化のため

① JA 暮らしの活動を通じた地域コミュニティ活性化への取り組み

例えば…

- ①農業まつり・ふれあいまつり・青空市場・各支店感謝祭等各種イベントを開催
- ②声を聴く運動として組合員全戸訪問を実施
- ③若手職員を中心とした「自己改革推進プロジェクトチーム」を組織し小学生バレーボール大会に協賛。地元産の材料を使ったおにぎりと豚汁をお振舞い。
- ④食農教育の一環としてとして教育資材の配布や保育園・小学校・中学校の農業体験を実施。
- ⑤震災後、8年ぶりに夏祭り道中踊りへの参加。

等々様々な取り組みを実施しています。



このほかにも、

- ・健康講座を開講し、高齢者の方でも無理なくできる運動や健康についての説明を行っています。
- ・JA 助け合い組織「虹の会」による地域ボランティア活動を行っています。
- ・管内すべての新小学1年生に黄色い帽子を贈呈しています。
- ・男子職員のほとんどが消防団に所属し、地域防災の一翼を担っています。

組合員の皆さまへのお願い

JA グループでは、12月から全国1,000万人を超える全ての正・准組合員を対象としたアンケート調査を行います。組合員の皆さまがどのように自己改革を理解し、評価しているか、組合員の声を「見える化」する必要があります。その際、JAの役職員が組合員のお宅に訪問させていただきます、アンケートを実施します。

組合員の皆さまのご協力をお願いいたします。



ころ柿コロタン